

令和5年度 第1回 食育推進会議 議事録

開催日時	令和5年6月27日(火) 午後3時～
開催場所	東京エレクトロンホール宮城 602 中会議室
名簿	委員 白川愛子、神田あづさ、小野恵、小山田陽奈、片倉成子、木村由希、武田芳典、平田政嗣、古林史子、加藤邦治、白山幸喜、柳津英敬(代理・佐々木孝弘)、福田洋之(代理・渋谷智彦) 【欠席委員：加藤房子、佐藤将人、柴崎崇、二階堂善一、大和一美】 (敬称略)
	事務局 川口健康福祉局次長(保健衛生担当)、小椋保健衛生部長、佐野健康政策課長、飯間主幹兼健康増進係長(司会進行)、オブザーバー 筒井幸子

発言者等	発言内容
進行	<p><開会></p> <p>定刻になりましたので、ただいまより、令和5年度第1回仙台市食育推進会議を開催いたします。本日はお忙しい中ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>はじめに、本会議を代表いたしまして、白川会長よりご挨拶を頂戴したいと存じます。白川会長、よろしくお願いいたします。</p>
白川会長	<p><会長挨拶></p> <p>宮城大学の白川でございます。着座にて失礼いたします。</p> <p>本日はお忙しい中、またお足元が悪い中お集まりいただきまして、ありがとうございます。一言ごあいさつ申し上げます。</p> <p>食育基本法が2005年6月に公布されたことにちなみ、皆様ご存知の通り6月は食育月間になっておりまして、19日は「イク(育)」ということで食育の日になっておりました。それで6月は食育に関するイベントが全国各地で行われているところでございます。食育の日にたまたまゼミなどがございまして、日本の食料事情について考えてみました。</p> <p>多くの食料を輸入に頼っている日本では、カロリーベースの食料自給率が38%となっておりますが、米の自給率については、これはカロリーベースではないのですが、97%となっております。これはほぼ100%に近い状況です。また、その年の米の収量を平年比で示したものが、作況指数になりますが、この数値も100%前後で推移しており、安定しているように見えます。しかしながら、今からちょうど30年前に、異常低温の冷害と台風の影響で、作況指数の全国平均が74%、宮城では37%まで落ち込み、大凶作で米不足となりました。</p> <p>最近では、豪雨やそれに伴う土砂災害などが頻繁に起こるようになり、今後の気象の動向が農業生産に及ぼす影響も懸念されるところでございます。さらには昨年からの世界情勢の不安から、食料や飼料、肥料の多くを輸入に頼る日本では、食料安定保障のリスクも高まっている状況でございます。また、輸入価格の高騰や円安なども大きく影響しています。</p> <p>食料の安定供給に向けて、自給率を上げられるような国の施策が重要となりますが、私たちも生産者様をサポートし、JA様は、国産国消を提唱しておりまして、私たち仙台市民としては、地産地消を推進することにより、食材を長距離輸送しないことで、CO2排出削減に貢献し、SDGsの達成にも繋がります。私たちの食料と環境の問題について、農業や伝統的な食文化も含めて、改めて考えてみていただければと思います。</p>

	<p>本日の食育推進会議では、今後の食育の方向を示す仙台市食育推進計画第3期の骨子案につきまして、皆様からご意見を頂戴することになっておりますので、情報共有を含めまして、どうぞよろしくお願ひいたします。</p>
進行	<p><委員紹介> ありがとうございます。ここで、今年度から新たに委員に就任いただきました方々をご紹介します。お手元の委員名簿をご覧ください。仙台市保育所連合会、小野恵様でございます。</p>
小野委員	<p>よろしくお願ひいたします。</p>
進行	<p>仙台市小学校校長会、武田芳典様でございます。</p>
武田委員	<p>よろしくお願ひいたします。</p>
進行	<p>次に、本日出席いただいております、オブザーバーについてご紹介いたします。仙台市環境局筒井幸子理事でございます。</p>
オブザーバー 筒井理事	<p>筒井でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。</p>
進行	<p>裏面をご覧ください。本日は柳津英敬経済局長の代理で佐々木孝弘農林部長においでいただいております。</p>
佐々木農林部長	<p>佐々木でございます。よろしくお願ひいたします。</p>
進行	<p>福田洋之教育長代理で渋谷智彦総務企画部長にそれぞれご出席いただいております。</p>
渋谷総務企画部長	<p>渋谷です。どうぞよろしくお願ひします。</p>
進行	<p>続いて、本日出席しております、事務局側の本市職員を紹介いたします。川口健康福祉局次長でございます。</p>
事務局(川口次長)	<p>川口でございます。よろしくお願ひいたします。</p>
進行	<p>小椋健康福祉局保健衛生部長でございます。</p>
事務局(小椋部長)	<p>小椋でございます。よろしくお願ひいたします。</p>
進行	<p>佐野健康政策課長でございます。</p>
事務局(佐野課長)	<p>佐野です。よろしくお願ひいたします。</p>
進行	<p><会議成立報告> ここで議事に先立ちまして、本日の会議の成立についてお知らせいたします。 本日は加藤房子委員、佐藤委員、柴崎委員、二階堂委員、大和委員から欠席のご連絡をいただいております。</p>

	<p>本日は11名の委員にご出席いただき、過半数の出席となっておりますので、仙台市食育推進会議条例第7条の規定により、本会議は成立しておりますことをご報告いたします。</p>
進行	<p>続きまして、本日の資料の確認をお願いいたします。お手元の次第の次でございます、会議資料一覧をご覧ください。</p> <p>まずは事前にお送りしておりました資料でございます。</p> <p>資料1・令和5年度食育推進事業実施計画、資料2・仙台市食育推進ロゴマーク令和4年度活用状況及び令和5年度活用計画、資料3・仙台市食育推進計画第3期骨子案、資料4・仙台市食育推進計画第3期策定に係るスケジュール案、参考資料・令和4年度食育推進事業実績。</p> <p>また、本日机にお配りしております資料でございます。歯と口の健康週間市民の集いリーフレット、子供の歯並びリーフレット、日々のパンリーフレット、Melon みやぎ SDGs 環境アドベンチャーのリーフレット、ゆたかなくらし2023年6月号、食の情報館、カードサイズのせんだい伊達なキッチン-だてきち、でございます。最後になりますが、本日、宮城県栄養士会様より提供がございました、我が国の食料安全保障と食育の推進というリーフレット、ございますでしょうか。</p> <p>また、本日の会議での資料ではございませんが、皆様からご報告いただきました、令和4年度の食育の取り組み事例をまとめました、令和4年度仙台市食育推進会議関係団体食育推進事例集を食育仙台のロゴマークのファイルに入れて本日お配りしております。</p> <p>以上になりますが資料の不足等はございませんでしょうか。</p> <p>それでは、これからの進行につきましては、会長にお願いしたいと存じます。白川会長よろしくをお願いいたします。</p>
白川会長	<p>それでは、委員の皆様、よろしくをお願いいたします。</p> <p>議題に移ります前に、まず議事録署名につきまして、こちらから指名させていただきますのでよろしいでしょうか。</p> <p>それでは、本日の議事録署名につきまして、古林委員にお願いしたいと思いますのでよろしいでしょうか。</p>
古林委員	<p>承知いたしました。</p>
白川会長	<p><3. 議事></p> <p>よろしくをお願いいたします。それでは議事に移ります。</p> <p>議事(1) 令和5年度食育推進事業計画についてでございます。この計画は、今年度の食育推進事業について、委員の皆様からご回答いただいた事業計画を、事務局で取りまとめたものでございます。今回の会議では、時間の都合もございまして、仙台市以外の団体につきましては、3団体に絞ってご説明いただき、他の団体につきましては、資料1をもって、ご報告とさせていただきます。</p> <p>恐縮ですが、こちらから委員をご指名させていただきますので、取り組みの事例などについてご紹介いただきたいと思います。</p> <p>まず資料1、2ページに掲載してあります、仙台歯科医師会の取り組みについて、平田委員、お願いいたします。</p>

平田委員	<p>仙台歯科医師会平田です。よろしくお願いします。</p> <p>仙台歯科医師会の取り組みといたしまして、私たち、歯と口の健康を守る歯科医師、そしてその団体としましては、食育として、何を食べるか、いかに食べるかという部分で、市民の健康を確保していかなければいけないというふうに思っております。</p> <p>様々な取り組みをやっておりますがその中で一つ、歯と口の健康週間というのが6月4日から6月10日まででございますが、それに合わせ、市民のつどい、というものを実施しております。カラーの資料をご覧ください。</p> <p>今のコロナ禍ということもありましてリアルでの開催ということができなくなっているようなところがございますけれども、その代わりとしまして、逆にIT化というところも含めまして、Web開催という形で、3年目の開催となります。</p> <p>下の主催のところ見ていただきますと、14団体というたくさんの団体の方に参加していただいております。栄養士会の方々にも参加していただいております。学校関係の方々、幼稚園関係の方々、たくさんの方々が参加して協働して作らせていただいているところでございます。</p> <p>中でも、食育の部分に関しましては、また後程説明させていただきますけれども、子供達の歯と口の機能がここ10年20年で変化している、ということがございますので、市民公開講座という形で、東北大学歯学研究会から、「お子さんのお口ぼかんについて」というテーマでお話しさせていただいているところでございます。</p> <p>主に動画を紹介しながら、面白く市民の方々に歯と口の健康、そしてそこから食育に繋がる部分も含めて紹介させていただいているような内容になっております。</p> <p>歯と口の健康週間はもう終わっておりますけれども、ホームページは10月末まで公開しております。クイズに関しましては6月30日で終わってしまいますが、それ以外の情報については、そのまま掲載させていただいております。是非とも皆様、QRコードからアクセスできますので、一度ご覧いただければと思います。</p> <p>仙台歯科医師会から説明させていただきました。以上です。</p>
白川会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは続きまして、7ページに掲載してあります仙台市私立幼稚園連合会の取り組みについて、木村委員、お願いいたします。</p>
木村委員	<p>はい。仙台市私立幼稚園連合会の木村由希と申します。私は宮城野区におります、宮城幼稚園の園長をしております。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>今回ですね、私立幼稚園連合会からは2園の取り組みを紹介させていただきました。</p> <p>実施内容の4つ目ですが、「日々のパンの派遣講師に来ていただき、パン教室に参加する、あらかじめ発酵済みのパン生地を、自分で成型し、焼いたものを試食する」とありますが、このパン教室実施を昨日、6月26日に実施いたしました。それで早速今日発表ということなんです、まずは、この日々のパンさんは今年の3月ぐらいに活動を始めたということで、パンフレットがございますので、後でご覧いただければと思います。</p> <p>今年卒園した児童のお母さんの方から、「こういう会、私がやっているんですけど、いかがでしょうか。」とお話をいただいたときに、なんてすばらしいのかなって思ったんです。パンっていうと、手づくりするにはすごく時間が</p>

	<p>かかるので、ちょっと手を出しにくいイメージが私もあるんですが、聞いてみたら、まずは袋に粉とか砂糖とか、イーストの入ったものを入れて振ったり、そのあと揉んだりするだけなんです。子供でもできますねということで実施しました。</p> <p>それで昨日は、あらかじめ発酵したものをいただいて、それをそれぞれ思い思いの形に成型しました。子供たちは朝から、「パンづくり楽しみ！」とっていて、その笑顔がすごく印象的でした。エプロンと三角巾をつけて、一生懸命、先生の言うことをよく聞いて取り組んでおりました。</p> <p>すぐ自分で形にできた子もいるんですけど、ちょっとこねたり、丸めたりしながらやった子はちょっと時間かかっていた。できた子から焼いていたので、その時間の差も案外有効に使えたかなと思います。</p> <p>いい匂いもしてきて、「おいしいね」と子供たちは五感を使って楽しんでいました。「おいしくなあれ」と魔法をかけるとかね。本当に自分の手で触れて、素晴らしい体験をさせていただいたなと思っています。</p> <p>お持ち帰り用の材料もいただいて、1人ずつ家にお持ち帰りをしました。お母さんたちからも、「すごく美味しかったです」といった反応がありました。また、簡単に作れることに驚いていました。実はここにも書いてあるんですが、無料なんですね。こんなに素晴らしい体験をさせていただいて無料ってどうしてかなって思うと思うんですが、この企画に賛同いただいたスポンサー企業より活動費材料費のご支援をいただいて運営しておりますということなので、ずっと続けばいいなと思っています。とってもいい企画だと思って、宣伝させていただきたいなと思います。</p> <p>このようなパン教室を実践していただいて、1人でも多く、パンが焼けたよ、私にもできたよっていう体験をしてもらいたいなということで、紹介させていただきました。以上になります。</p>
白川会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは最後に15ページに記載してあります、公益財団法人みやぎ環境とくらしネットワークの取り組みについて、小山田委員、お願いいたします。</p>
小山田委員	<p>はい。みやぎ環境とくらしネットワークの小山田と申します。よろしく願いいたします。</p> <p>15ページと合わせて、みやぎSDGs環境アドベンチャーというチラシをご覧ください。今年度、2023年の6月に私どもの団体が設立から30周年を迎えまして、2023年7月から、1年間をアニバーサリーということで、30周年記念事業を実施する計画しております。そのキックオフイベントとして6月17日に、みやぎSDGs環境アドベンチャーとして、環境について、もう少しターゲットを絞っていこうということで、これまでは広く一般に、というようなイメージで企画をしていたのですけれども、子供たち、その親世代、メインは小学生の親子にターゲットを置きまして、企画を行いました。</p> <p>その中で、環境と食が繋がっているってことを知っていただくということで、裏面になりますが、ステージプログラムでは、みやぎの海、森、食について、宮城でも取れるお魚ですとか、食べ方、気候変動の影響により、取れる魚種も変化してきていることなど、そのような現実なんかもお話いただきました。</p> <p>あとみやぎの食というところでは、やはり産地の近くで、旬なものを食べようというようなテーマで、在来作物を名取で育てている、せり鍋初発案者の三浦隆弘さんという方にお話をいただいたりして、時間も30分程度で設定し、</p>

	<p>子供たちも聞きやすいような時間で開催しました。</p> <p>当日は、小学生の親子の参加も大変多く見られ、参加しやすい工夫として、お魚のクイズラリーということで会場内クイズをちりばめました。また、参加してくれた方に、宮城の海の幸をプレゼントしました。みやぎ生協のブランドなんですかね、古今東北という商品があるんですけども、宮城が産地になっているものの商品をお土産としてプレゼントしたりというような工夫をして、開催をしました。</p> <p>あと、健康政策課さんにご協力いただきまして、私達もまず食育という言葉を広げる力になれないかなと思ひまして、こちらの食育せんだいのカードをご提供いただきまして、これも来場して下さった方へ総合受付でお配りしました。</p> <p>これは開催したものですけれども、これからも食の部分テーマを含めて、今後も開催していこうと考えているので、その際はぜひ皆さんにお知らせできればなと思ひます。</p>
白川会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>今、ご発表いただきましたことにつきまして、仙台歯科医師会様の事業計画につきましては、この後仙台食育推進計画第3期骨子案の説明がございますが、その中で、「健康な歯と口を維持し食事ができている」という、新たな目指す姿に関連して非常に重要な取り組みと思われまます。</p> <p>また、私立幼稚園連合会様の取り組みは、子供は粘土遊びなどを通じて、こねたり形を作ったりすることが大変好きなので、楽しみながらパンをつくって、自分の食べ物を自分で作るということに興味を持てるようになることは大変良い取り組みと思ひました。</p> <p>また、みやぎ・環境とくらし・ネットワーク様の事業計画は、SDGsの14番目の「海の豊かさを守ろう」、15番目の「陸の豊かさを守ろう」であるとか、地産地消を通してCO2排出を削減して、13番目の「気候変動に具体的な対策を」の目標を目指す重要な取り組みになるかと思ひます。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>では続きまして、仙台市の取り組みについてご説明をお願いいたします。まず、こども若者局からお願いいたします。</p>
白山委員	<p>こども若者局でございます。資料1の20ページをご覧くださいと思ひます。今年度の主な取り組みについてご説明をさせていただきます。</p> <p>20ページの中ほどでございます①-B-2という部分ですが、保育所幼稚園児の保護者、地域子育て家庭の保護者の方に、健康的な食習慣について情報発信するという項目でございます。こちらにつきましては、離乳食、幼児食の講座を開催いたします他に、保護者参観や懇談会、さらには給食だよりなどを通じまして、ご家庭に健康的な食習慣の理解を促す情報を提供して参ります。</p> <p>続きまして21ページ、①-B-7食育推進担当者の資質向上を推進するという項目でございますけれども、こちらにつきましては公立及び私立保育所、さらには認定こども園で構成いたします仙台市保育所連合会で、栄養士の方や、調理の従事者を対象にいたしまして、子供の発育発達と、食行動の関わり、さらには食物アレルギー対応についての研修を実施するなど、食育推進担当者の資質向上を図って参ります。</p> <p>続きましてその下①-B-8の部分でございます。妊産婦の方や乳幼児の食事について、専門性を生かして、きめ細かい指導支援をして参りますという項目でございますが、こちらにつきましては各区の保健福祉センター及び総合支所</p>

	<p>の栄養士や保健師などの専門職が、母子健康手帳の交付時、さらには離乳食教室、幼児健診などの際に、妊産婦や乳幼児の健康的な食生活についての啓発や個別相談に応じて参ります。この育児教室、幼児健診につきましては、集団形式を徐々に再開しております、一部オンラインも併用しながら実施しているところがございます。参加者の個別相談に加えまして各総合支所では、リーフレット、動画を用いて、工夫を凝らして啓発を行っているところがございます。例えば、仙台 Tube などを活用して、離乳食や野菜を用いたレシピを紹介しながら、妊産婦の方や乳幼児の保護者の方に対する食育の推進を図っているところがございます。</p> <p>主な取り組みにつきましては以上でございます。</p>
白川会長	<p>続きまして経済局お願いいたします。</p>
佐々木農林部長	<p>はい。それでは資料の 25 ページ、26 ページをご覧くださいと思います。最初に 25 ページでございますけれども、地産地消を進めようというところで、③-B-1、③-B-2 に、それぞれ記載させていただいているような事業を今年度も予定しているところがございます。そのうち、③-B-1、5 の欄に、米と米粉の活用促進事業ということで、今年度が初めてになりますが、8 月ぐらいに開催を予定しております。米と米粉、市内産の野菜を使つての企画を、現在、実施に向けて準備をしているところがございます。また、②にございますように料理教室を通じて、まずは市民の皆様方に、特に米粉を使つていただけるような機会の創出をしていきたいということでの事業を予定しております。</p> <p>加えて 26 ページの方につきましても、従来から取り組みをさせていただいております、レクリエーション農園でございますとか、あとは市場での取り組みでございますとか、そういったようなところを、今年度も引き続き実施を予定しているところがございます。以上でございます。</p>
白川会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、教育局お願いいたします。</p>
渋谷総務企画部長	<p>はい。教育局です。</p> <p>それでは 27 ページをご覧ください。中段よりちょっと下にあります、市民対象の食育に関する講演会の実施についてでございます。これは昨年度に引き続き、健康教育研修会、仙台っ子健康セミナーとして実施する予定でございます。今年度につきましては、心身の健康と食事といったテーマによる講演を実施し、講演等によりまして、保護者、学校等、地域全体において、食育に関する意識が醸成されるよう努めて参ります。</p> <p>続きまして、28 ページ目、中段よりちょっと下にございます、学校給食を生きた教材として活用した食育の推進と、その下にございます、せんだいっ子給食月間についてでございます。学校給食では、食育や地産地消といった観点から、地場産品の積極的な活用を推進してございまして、この取り組みをより一層進めるために、毎年 6 月をせんだいっ子給食月間として定め、地場産品の活用状況の調査等を行っているところがございます。今年度も学校給食において地場産の野菜等を活用した伝統食や郷土料理を提供し、栄養士がその由来や産地を児童生徒に説明するなどを通じまして、食育の推進に努めて参るということで考えてございます。以上でございます。</p>
白川会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、健康福祉局お願いいたします。</p>

<p>加藤邦治委員</p>	<p>はい。健康福祉局の方から本日出席してない局の部分を含めましてご説明させていただきますと思います。</p> <p>資料1の19ページをご覧くださいと思います。これは市民局の取り組みということでございますが、市民局に消費生活センターというところがございまして、そこで年に1度でございますけれども、食に関する講座の開催というのをやってございます。資料1の方で申しますと、推進の柱⑤-A-1の4番目に書いてございます。今年度も10月に開催するというので、昨年度ご出席の方には、昨年度資料を渡した記憶がございますが、昨年度は確か乾物クッキングというのをやっておられたかと思っております。今年も、何かテーマを決めてやるということでございます。</p> <p>合わせて、本日机上配布資料としてお配りしました、ゆたかなくらしをご覧くださいと思います。今回、最後のページに食品表示のページを作ったいただきまして、上の方に食育せんだいのロゴマークを使っていたいただきました。実際の取り組みも含めまして、消費生活センターの今年度の計画でございます。</p> <p>それから私ども健康福祉局の取り組みとして2点ほどご紹介させていただきます。資料1、31ページをご覧くださいと思います。</p> <p>31ページの上の方に大学生の食育プロジェクトというのがございます。これはコロナ禍で中断をしておりましたが、この食育プロジェクトを今年再開する予定でございます。若い世代の食育を啓発するためには、やはり同世代の学生の啓発が大事だろうということがございまして、様々なアイデアをいただきながら、食の大切さを浸透させるということを目的としてやるものでございます。今年度は主にSNSを活用した情報発信を進めるということで、企画会議などで通じながら進めて参りたいと思っております。</p> <p>42ページをご覧ください。こちらはコロナ禍とあまり関係なく続いておりますけれども、⑤-A-1の2、食中毒防止等のパンフレット・ポスターによる啓発ということで、パンフレット、ポスターでの啓発もやっておりますけれども、食品衛生情報誌の食の情報館というものを毎年作ってございます。それも本日お手元にお配りをしております。これは食品衛生サイドの方で作っておりますので、どちらかという食中毒の防止であるとか、そういった内容が多いものでございまして、その中には食の安全性確保など、様々な要素が入ってございます。配布先といたしましては、庁内の他、市民センターや児童館などにも配布しております。また、各区役所の窓口等にも置いてございまして、このような内容に関する出前講座とか講習会があった際にも使っているものでございます。46ページに食育せんだいのマークを使ってございますのでご覧ください。46ページに食育せんだいのマークを使ってございますのでご覧ください。</p> <p>合わせて、ロゴマークの活用ということで、本日お手元に何枚か配布しております。表はロゴマークですが、裏がQRコードを入れておまして、私どものインスタとかフェイスブックのページに繋がるような形をしてございます。今日お手元に、多分間違っなければ30枚ずつなっているはずですが、配布をしてございますけれども、まだまだたくさん作ったようですので、どこかで配布ということがあればお声がけいただければ、必要分お渡しできるようになっております。あわせて宣伝をさせていただきました。</p> <p>以上でございます。</p>
<p>白川会長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>次に環境局の取り組みについて、本日は環境局の筒井理事様にオブザーバーとしてご参加いただいておりますので、ご説明をお願いできますでしょうか。</p>

	<p>よろしくお願いたします。</p> <p>それでは環境局の取り組みにつきまして、資料の24ページをご覧ください。環境局では、今年度も食品ロスの削減に着目した取り組みを進めて参りたいと考えております。</p> <p>主なものをご紹介しますと、④-A-1、2番目の食品ロス削減ガイドブックでございますけれども、令和2年に作成をいたしました、こちらの改訂版を、今年度作成を予定しております。</p> <p>また、同じく④-A-1、3番に、ワケルくんもったいないマルシェというのが書いてありますが、こちらは昨年10月に始めた事業で、アプリを利用して、賞味期限が近い食品を事業者の方がアプリ上に出品をすると、登録をした消費者がその食品を少し割り引いて購入することができるというマッチングサービスです。今現在、市内の利用登録者が7000名を超えまして、開始からこの6月までで取引件数が約2000件、それから食ロスの削減量は約1400kgというふうになっておりまして、利用が日々伸びているという状況でございます。</p> <p>その他、資料に書いております、ホームページ等での啓発活動や、食べきりを推進する、いわゆる3010運動、会食と宴会の最初の30分。あと、最後の10分には、お料理を楽しんで食べ残しを減らしましょうという運動ですけれども、そちらの推進ですとか、フードドライブなどにつきましても引き続き考えております。</p> <p>以上でございます。</p>
オブザーバー (環境局 筒井理事)	<p>ありがとうございます。</p> <p>食品ロスに対する取り組みは非常に画期的ですばらしいと思えました。皆様から質問等ございませんでしょうか。いかがでしょうか。後程でも構いませんので、また質問等ございましたらお願いいたします。</p> <p>それでは次の議事に移ります。</p> <p>(2)の仙台市食育推進計画第3期骨子案についてです。まず事務局よりご説明をお願いいたします。</p>
白川会長	<p>はい。それでは事務局よりご説明いたします。お手元にお配りしておりますA3のカラーの資料をご覧ください。</p> <p>昨年度に実施しました、現計画の最終評価結果では、食育に関心がある人の割合はほぼ横ばいということで、64.1%。また、適正体重の範囲にある人の割合については、児童生徒の肥満が有意に増加していることがわかりました。このような点を踏まえ、国の食育推進計画も参照し、食育推進計画を現在新しいものを策定しているところでございます。</p> <p>骨子案につきましては、本市では食育推進計画は、食と健康の観点から、いきいき市民健康プランという、市民の健康づくりに関する計画と連動して作る形をとっております。こちらの骨子案の一番上のところがございますけれども、計画の概念を表すコンセプトを未来へつなげる食育といたしました。食を通して、将来の健康を守ること、食文化の継承が次世代の食を豊かにしていくこと、それらが今後の環境保全に繋がっていくことなど、それぞれの取り組みの先に共通することが未来であることから、未来へつなげる食育としたものです。</p> <p>基本目標は、市民一人一人が食について、多様な視点で関心を持ちながら、毎日の食事を味わい、楽しむことを通して、よりよい未来を次世代へつなげます、としました。このコンセプトを受け、市民一人一人が食育を推進すること</p>
事務局(佐野課長)	

	<p>で、よりよい未来が形成され、次世代へつないでいこうという目標です。</p> <p>なお、右側にありますのは、食育推進のロゴマークになります。</p> <p>次に推進の視点として3点を掲げております。1点目が、食を通した心身の健康づくりを推進します。2点目が、食文化への理解を深め、次世代へ伝える取り組みを推進します。3点目が、環境保全、脱炭素を意識した食生活を推進しますといたしました。このうち、3点目の環境保全の視点につきましては、GX 推進が市政の重要な課題の一つとされている中、食行動が環境負荷の低減にも貢献しうると言われておりますことから、当課としても、豊かな食の維持と食文化を含め、次世代に継承する環境を守るためには、市民の意識の醸成が急務であると考え、脱炭素をキーワードとして取り組むこととしたものです。</p> <p>さらに下の方になりますが、計画全体を通しての推進方針として3点掲げています。多様なライフスタイルへ対応した生涯にわたる切れ目のない食育の推進。食育推進ロゴマークの活用をはじめとする関係機関、関係部局における一体的な取り組み。新たな日常やデジタル化など、時代に対応した食育の推進となっております。</p> <p>次に目指す姿アウトカムについて説明いたします。こちらは、市民一人一人のありたい姿ということで、市民を主語にしております。推進の視点ごとに目指す姿を柱として一つ掲げ、その姿になるための具体的な姿を示しました。推進の視点1では、食を通した健康づくりができるを目指す姿の柱に掲げ、そのために、朝食を毎日食べている、栄養バランスのよい食事をしている、健康な歯と口を維持し、食事ができている、安全な食生活について知識を持ち、自ら判断しているということを具体的な姿としました。</p> <p>推進の視点2では、食文化を理解し、次世代に伝えられるとし、地元食材や郷土料理を食事に活用している、和食文化について理解し食べる習慣があるを具体的な姿としました。</p> <p>推進の視点3では、食行動を通して環境負荷を減らすことができるとし、地元食材や旬の食材を積極的に利用している、食品ロスの削減に取り組んでいる、環境負荷の小さい食品について知っている、具体的な姿としました。</p> <p>この計画の計画期間ですが、仙台市いきいき市民健康プラン第三期に合わせ、令和6年度から令和12年度までの7年間といたします。</p> <p>現計画との違いや特徴としまして、現計画には設けておりませんでした、コンセプトを新たに設定したこと、食育推進がSDGsの多くの目標に貢献するとされていることから、脱炭素をはじめ、計画の内容にも反映させていこうというふうなところがございます。</p> <p>市民生活において食は健康の基礎となるものですから、市民の皆様の生活に少しでもお役に立てるような計画を策定していきたいと考えております。</p> <p>説明は以上になります。</p>
白川会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>次期計画は、環境部分を一つの視点として打ち出しているところが、現計画とは大きく異なる点であると思います。</p> <p>本日は、仙台市環境局の筒井理事様にご参加いただいておりますので、環境の面から見た食育の視点について、ご説明いただければと思います。</p> <p>それでは、筒井理事お願いいたします。</p>
オブザーバー (環境局 筒井理事)	<p>ありがとうございます。</p> <p>今回の計画で、環境保全や脱炭素という視点で一つ大きくまとめられたということで、環境局の立場からも少し補足をさせていただきたいと思います。</p>

皆様もご承知の通り、国は2050年のカーボンニュートラル、つまり二酸化炭素の排出量を実質ゼロにするということを掲げまして、各省庁もそれから地方自治体も、これを踏まえた取り組みというのを、今大きく加速させているというような状況です。

脱炭素の取り組みというのは、私たち環境局で主にやっていますけれども、脱炭素は社会経済のあらゆるところに関わっておりまして、大変幅広いものなのだというふうに思っております。

環境省の資料によりますと、消費ベースで見ますと、CO2の排出量の6割以上が、衣食住を中心とするライフスタイルに起因しているものだと言われております。中でも食によるものは、その中の12%を占めているというような資料がございます。そういう意味で、ライフスタイルをサステイナブルなものに変えていくということは、この脱炭素を考える上で非常に不可欠なものであると思っております。その中でも、大きな割合を占める食の取り組みということは、あらゆる人にも関わってきますし、とても重要なものではないかと考えております。

脱炭素と食の取り組み、具体的にどこが関わっているのかということですが、冒頭、会長がご挨拶で触れていただきましたけれども、例えば、遠くの産地から食料を運んでくるのではなく、地域の旬の食材を食べるというのは、輸送に係るエネルギーの削減に貢献できますので、地産地消の取り組みというのは、脱炭素にはとても大切な取り組みであると考えます。

また環境局で取り組んでおります、食品ロス、これはごみの削減という文脈でよく言われますけれども、ごみが少なくなるということは、結果的には収集運搬ですとか、ごみの焼却に伴うCO2の排出量を削減することにも繋がって参ります。それから環境負荷の小さい、つまり化学肥料の少ない農業ということもありますけれども、化学肥料というのはまさに石油由来のものがかなり多くを占めておりますので、そこを低減するという事は、石油化石燃料を使わないということにも繋がって参ります。

今回事務局でまとめていただきました、目指す姿アウトカムのところは、おそらく現行計画でも、様々に取り組んでおられるところなのだと思いますが、今回、環境保全、それから脱炭素の視点で、取りまとめた、それを全体でこの視点で統合的に取りまとめたことかなというふうに私どもとらえております。

環境の分野でも、資源循環とか生物多様性とかいろいろな分野を私どもやっておりますけれども、今やはり主流として脱炭素目線で、そういった資源循環なども統合的に取り組みを進めていこうというようなことが行われています。

今日皆さんところにこのペットボトルを置かせていただいておりますけれども、こちら、ワケルくんがついていますが、仙台市民の方が出してくださったペットボトルを再生してできたペットボトルです。これは伊藤園さんとTMパックさんという企業と一緒にやっておりますが、仙台市のペットがペットに生まれ変わるだけではなく、ボトリングも仙台でやっているということで、遠くでリサイクルするのではなくて、地域の中でリサイクルして商品も地域の中に還元するという意味で、脱炭素の取り組みとしても、私ども、これは意味のあることではないかなというふうに思っております。

そういう意味で食育計画でも、こうした広い目線でまとめていただいたということは、環境行政のサイドとしても非常にありがたいことだなというふうに思っております。

環境局でも、現在、温暖化対策推進計画という温暖化の計画の改定作業を行っております。食を通じた脱炭素型ライフスタイルの定着ということにつき

	<p>ましては、この食育推進計画と呼応するような形で、何か表現できないかなということも含めて、環境局でも今現在考えているところでございます。 私からは以上でございます。</p>
白川会長	<p>ペットボトルをペットにリサイクルするだけでなく、地元でボトリングもされているということが印象的でした。非常に良い取り組みだと思います。ありがとうございました。</p> <p>仙台市の食育推進計画第3期骨子案におきましては、国の第4次食育推進基本計画の重点事項に沿った形で、環境保全や脱炭素を意識した食生活の推進が視点の一つとなっております。まさに持続可能な食を支える、未来へつなげる食育の推進がコンセプトとなっておりますので、皆様にはそのような食育の推進を目指していただきたいと思います。</p> <p>また、「視点1」の目指す姿として、「健康な歯と口を維持して食事ができていく」の項目が新たに加えられまして、子供の頃から、歯と口の健康の維持について学び、実践する習慣を身につけて持ち続けることで、結果として高齢期のオーラルフレイルを予防し、健康寿命の延伸にもつながることになります。</p> <p>それでは続きまして、委員の皆様より、骨子案についてのご意見、ご感想ですとか、関連付けられる今後の取り組みなどについてご発言をお願いいたします。恐れ入りますが、会議の時間も限られておりますので、各委員2分程度でお話しいただければと思います。</p> <p>それでは、名簿順で、まず小野委員からお願いできますでしょうか。</p>
小野委員	<p>私どもこども園とか保育所とかなんですけれども、最近子供たちに朝食を食べてこない子が増えていたりするんですね。どうしても生活リズムが崩れていて、やっぱりメディアを多く見られていたりとかってところもあるので、まずこども園とか保育所とかでも、子供たちの生活リズムのところとか、懇談会などを通してお話していきながら、食事の大切さだったり、楽しく食事ができるってところを知らせていけたらいいかなというふうに思っております。以上です。</p>
白川会長	<p>ありがとうございました。 続きまして、小山田委員、お願いいたします。</p>
小山田委員	<p>はい。私たちは環境団体ですので、やはり環境保全とか脱炭素というところで、環境保全と食がどんなふうに繋がっているのかっていうのを一般の方たちに知っていただけるような取り組みを、その部分をつなげられるような取り組みをとということで、今年度の計画には盛り込んでいきたいなというふうに考えております。</p>
白川会長	<p>ありがとうございました。 続きまして、片倉委員お願いいたします。</p>
片倉委員	<p>はい。栄養士会の片倉です。 栄養士会としましてですね、今年の6月6日、食育白書にですね、宮城県栄養士会が掲載されましたので、そのPRをさせてください。 東北農政局さんと共催で、去年、米粉のレシピ集というのを作りました。これが農林水産省からすごいお褒めの言葉をいただきまして、食育白書に掲載されております。皆さんのお手元に届いていると思います。 そういうことで、この骨子案のところですね。特に2番目の地元食材や郷土</p>

	料理を食事に活用しているというところの3段目、地元特産物や郷土料理について知り、生活に取り入れ次世代へつなげるということで、このレシピ集をもとに、栄養士会としましては、米粉の普及拡大ということで、東北農政局さんと一緒に進めておりまして、今回も早速7月にですね、大々的に米粉の講演会を、宮城学院女子大の丹野先生が講演をするというような形になっておりますので、PRをさせていただきます。以上です。
白川会長	ありがとうございました。 続きまして、木村委員お願いいたします。
木村委員	はい。木村です。 お隣の小野先生が仰ってくださったんですけど、幼稚園も全く同じです。会議に去年出まして、4歳児の朝食を毎日食べる率が100%ではないってということで、すごくショックを受けました。それを先生方にも伝えて、とにかく子供に「おはよう」っていうときに、「朝ご飯食べてきた？」って、毎日とはいかないんですけど、なるべく聞いてみようよっていう、取り組みをしました。 やはりその結果、子供がその朝食の内容とかを先生に教えてくれるっていう習慣が少しついたので、今年も少しずつ、またやってみようかなと考えているところです。 それ以外は全部小野先生がお話してくださったので、以上です。
白川会長	ありがとうございました。 続きまして武田委員、お願いいたします。
武田委員	はい。仙台市の小学校の教職員が所属している学校給食部会というのがございまして、その中で、ここにある推進の視点、あるいは目指す姿を实际達成するために、どのようなことが可能なのかを実践研究に取り組んでいきたいなと、本日出席して思いました。 あわせてこの中ではなかなか実施できなかったんですけども、保護者の意識啓発ということで、給食試食会等を実施しながら、この推進計画に少しでも貢献できればなというふうに考えております。以上です。
白川会長	ありがとうございました。 続きまして、平田委員お願いいたします
平田委員	はい。歯科医師会の平田です。 今回の食育推進計画第3期の骨子案、コンセプトが未来へつなげる食育ということで、生まれた子供たちが、どんどん成長して行って、40、50、60と豊かな高齢期を迎えるところまで繋がるような食育っていうのをこれから目指していかなければいけないというふうに考えております。 今回も目指す姿アウトカムに、健康な歯と口を維持し、食事ができているっていうようなところを入れていただいたこと、我々専門職としても非常にうれしいなとか、逆に頑張らなければいけないなと考えているところです。 子供たちの顔と口がいっぱい載っている資料で説明させていただきたいと思えます。 これまでの10年間に子供の口ってどういうふうなことが起きたか、というところを、まとめてみたものです。左上の子供たち、幼稚園生ですね。この中で、オレンジの丸をしているところ、この子供たちは結構しっかり口を閉じてい

るのですが、それ以外の子供たちは、口がぽかーんとあいている子たちがすごく多いんですよ。最近そういうふうな口をぽかーんと開けている子が多いです。ものすごく多いです。そういう子に限って猫背なんですよ。猫背だし食事のときも、足べったりつけないで、ぶらんぶらんして食べているんですね。顎の位置が全然収まらないっていうふうな状況になっています。

その左の下のお口の中の写真ですけれども、小児歯科の先生たちがよく言っているんですけども、子供たちの口の変化の第1世代から第4世代なんて言われています。1970年代80年代だと、今、40代50代の人たちの子供の頃になるのかなと思うんですけども、見ていただくとわかるんですが、すきっ歯ですよ。歯並びが隙間だらけで、噛むと、下の前歯がきっちりと見えているんですよ。つまりあごの位置が、カチカチと噛むようなそんな位置にあったんです。

次に第2世代と言われてはいますが、1980年代から90年代に多くなってきていますが、閉鎖型歯列と書いております。第1世代と比べて、歯の隙間がどんどんなくなってきています。さらに2000年代になってくると、過蓋咬合と言いまして、これは何かというと、上の前歯に隠れちゃって、どんどん下の前歯が見えなくなってきています。

さらに第4世代、2010年ぐらいになると、今度は、下あごがどんどん後ろに下がっていつているんです。そのような変化がおこってきて、そして、なにおこるかということ、隙間がないから、永久歯に生え変わったときにガチャガチャなります。あと、下の顎が奥顎になっていることによって、気道がうまく確保できなくて、呼吸がうまくできない、というふうな状態になってきているんですね。

右の上の写真を見てもらうとわかるんですが、この左側が現在の子供たちで、右側が昔の子供たちです。現在の子供たちの上顎の状態を見てもらうと、なんかものすごくV型になっているんですよ。さらに、上顎がものすごく、上のほうにあるっていいですかね。上に何かあるかっていうと鼻腔があるんです。だから、何が起きているかっていうと、鼻腔をものすごく圧迫しています。だから、鼻呼吸ができないんですね。鼻呼吸ができないってことは何が起きているかっていうと、感染がよく起きる。風邪を引きやすい。そのような問題が当然起きてきています。

というところがあって、発育っていうのが、なぜかわからないけれどもおかしくなっている。おそらく食べ方だったり、硬いものをしっかり食べるとか、歯固めみたいな感じでぐっぐっと前歯で引っ張りながら食べていくというような、そういうふうな本来あるべき食生活、食習慣というのが、どんどん失われていった結果なんじゃないか、というふうに言われています。

先ほども会長さんのほうから話がありました、フレイル予防については、いつから関わらなければいけないのか、という話ですけれども、右の下のグラフを見ていただければと思います。

上のグラフをみていただくと、幼児期学齢期っていうのはどんどん口腔機能が良くなってきて、成人期にはフラットになってきます。そして高齢期になって、下がっていくわけですけども、フレイル、オーラルフレイルという言葉を考えていくと、どうしても高齢期になってからのことばかりを考えちゃうんです。ただ、この下のグラフ見てもらうとわかるんですが、幼児期学齢期に十分な育成、発育がなっていない状態でフラットの状況を迎え、高齢期において、いきなりフレイルの状態に突入してしまう可能性があるんですね。

ということを考えていくと、やはりここに書かれております、市民一人一人が、食について多様な視点で関心を持ちながら、日々の食事味わい楽しむことによって、より良い未来を次世代繋いでいくというふうな部分を考えていく

	<p>と、子供の頃から、お口の中をしっかりと整えていくってということが、食事をするためのツールとしてやはり整えておかないと、何を食べるとか、その前段の部分っていうのをやはり確保していただきたいというところがあって、この話をさせていただきました。</p> <p>子供達だけではなく、高齢者の方の口腔機能が落ちないような、取り組みという部分で、ぜひとも食育の部分でも関与して、取り組んでいただければありがたいかなと思っているところです。以上です。</p>
白川会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>近年、歯並びが変化しているとは感じていたのですが、この写真を見させていただいてこんなに大きな変化があるということに驚きました。ありがとうございました。</p> <p>続きまして、古林委員、お願いします。</p>
古林委員	<p>はい。古林です。</p> <p>骨子案についてですけれども、食は、すぐに結果が出てこないからこそ、やはり今を楽しむことが未来につながるっていうのは、キーワードになるのだというふうに改めて感じました。</p> <p>基本目標の下のところにもありますように、SDGsのところ、誰もが自然に健康になれる食環境づくりを展開というふうに紹介されていますけれども、やはり楽しみながらだと、いつの間にか自然に、というところに繋がるのかなというふうに思いました。</p> <p>これに関連して、こうなるといいなと考えたことなのですが、私たちが食べることに関心を持つのは、食べ物を買うときが大きな割合を占めるんじゃないかなというふうに思います。ですから、食品会社ですとか、スーパーやコンビニ、食品販売する会社ですとか、食に関連した企業との関わりっていうのを強くして、もちろん、色々なところで色々なことを、今日のご報告も聞いてわかったんですけども、これからもたくさん取り組んでいただければいいかなというふうに思います。</p> <p>買う側としては、いつもと変わらないんだけど、自然と食育につながる、また食に関心が薄い方でもいつの間にかっていうようなそんな流れができるというかなと思いました。</p> <p>企業としては例えばSDGsに取り組むことで、それが宣伝になるっていうふうに聞いたことがあります。買う側、提供する側、お互いがWin-Winになるような、一方通行ではない、途切れのないように、循環っていうんですかね、そういうのができるといいなと、考えたりしました。</p> <p>あと若い人へっていうのはなかなか難しいところが多分あると思うんですけど、忙しい子育て世代ですとか、学生なんかは今のこととして、なかなかとらえにくいですとか、そうすると大学とかとの連携とか、子育て世代には子供のことだけではない、親が元気でなければというところで、親も一緒に巻き込んだ食育がカギになってくるんじゃないかなと思いました。</p> <p>あとロゴマークについて、SDGsのマークって結構浸透してきていると思うのですが、食育せんだいのロゴマークも、市民の皆さんが、「あれね」って、「見たことがある」となるように、私の方でもちょっと微力ですけども、勤務先の文章とかに掲載させていただけたらな、と考えております。</p> <p>仙台市の食育推進計画の目指す姿を今後もイメージしながら、私自身も何か考えていきたいなというふうに思っております。以上です。</p>

白川会長	<p>ありがとうございました。 それでは神田委員、お願いいたします。</p>
神田委員	<p>私の方では保育士、そして幼稚園教諭、それから小学校教諭、それから管理栄養士を養成しております。管理栄養士が食育できるのは当然と言えば当然なんですけれども、保育士の養成の過程においても、幼稚園教諭養成の方においても、そしてまた、小学校教諭養成過程においても、どの課程の学生においても食育が得意な保育士幼稚園教諭、それから小学校教諭を育てていきたいと思っております。それを授業の中、プログラムに1回でも2回でも、お話させていただく機会を作っております。また今年度も続けていきたいと思っております。</p> <p>それから、地域のお母様で、やはり働いていないお母様ですね。その方が0、1、2歳のお子さんがあるとやはりちょっと、遊ぶ場所がない、それから孤独を感じてしまうというので、本学ではゆりっこ広場というのは定期的にやっております。ゆりっこ広場は、大学の方で、保育士のたまご、幼稚園教諭のたまごと一緒に遊びをしたりするところなんですけれども、その時に、保護者の方に向けて、お父様が来られることがないのでとても残念なんですけれども、お母様いらっしゃったときに、幼児食、それからそれがどんなに大切であって今何をしなくてはならないのかっていうことを、私がお話をさせていただく機会をいただいておりますので、今年度も引き続き行っていきたいと思っております。</p> <p>以上です。ありがとうございます。</p>
白川会長	<p>ありがとうございました。 皆様それぞれの立場から、貴重なご意見をいただきましたので、今後の取り組みにぜひ生かしていただきたいと思います。 皆様からご質問等ございますでしょうか。よろしく申し上げます。</p>
片倉委員	<p>栄養士会からです。 健康福祉局様にお伺いしたいなと思ったんですけれども、食を通した心身の健康づくりを推進しますっていうことで、心身ですよ。心も体ですよ。そうしたときに、果たして今、仙台さんでは、子供食堂の実態であったり、メンタルで病んでいる子供たちっていないのかな、と。そういう子供たちに対しての事業を拝見しましたらどこにもないし、それはどこでやってくれて救ってくれているのかなっていうところをお伺いしたいのが1点。 もう1点は、現計画は平成23年度から実施してきましたよね。この計画でどういう良い結果がえられたのかな、と。仙台市さんでは、ここはもうクリアできたよっていう、そういうのがあったら教えていただきたいなと思っておりました。</p> <p>よろしく申し上げます。</p>
事務局(佐野課長)	<p>はい。ご質問ありがとうございます。丁寧に見ていただきまして、感謝しております。 片倉委員の最初のご質問の子供食堂のところについては、こども若者局の方で実施している団体の方に助成金を出しております、今の計画には含めておりませんが、新しい計画には、ぜひ掲載させていただきたいというふうを考えております。 二つ目のご質問でここが良くなったよ、というところを、私もぜひお伝えしたいところなんですけれども、今回、最終評価で指標がAという目標値に達したものは実は一つというところまでして、外食栄養成分表示実施店の数っ</p>

	<p>ていうところが、A 評価になっております。</p> <p>他の指標がなかなか改善していないという現実でございまして、これは調査を行った令和3年度が、新型コロナウイルス感染症の時期でもあったことが、影響しているのかなと考察しております。</p> <p>食育に関するこの指標を、これから作って参りますけれども、皆様のご協力も得ながら、仙台市全体として、よりよい食育推進になっていくようにして参りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。</p>
片倉委員	<p>すみません、ご丁寧にありがとうございました。</p> <p>ということはですね、どうしてこういう質問したのかというと、栄養士会の会員が880名いるんですね。そして、仙台市さんと宮城県のこういった課題について食育の骨子案が出たときに、会員全部に流すことができるのです。こういったテーマが出てるけど自分の職場において、どんな事業を展開しているのって聞いて、それを期間を決めて、1ヶ月なら1ヶ月、去年は11月から12月までで発表したんですけども、そういうふうにして、会員一人一人が仙台市と宮城県の健康課題について認識をして、自分の置かれている病院であったり学校であったり保育所であったり、あとは行政であったり自治体であったり、そういったような現場において、どんな問題を、例えば学校であれば、朝食のことを話しましたよ、クラスに行って栄養教諭が話しましたよとか、そういったもののデータをして、やっぱり行動変容を起こしていくために、せっかくこういうふうに出てるんだから、会員みんなもね、力を合わせてやりましょうよということで、やっていますので、それを理解していただければありがたいなと思います。以上です。</p>
白川会長	<p>貴重なご意見ありがとうございました。</p> <p>他にご質問等ございませんでしょうか。よろしくお願いいたします。</p>
平田委員	<p>歯科医師会の平田です。</p> <p>前回の会議の時の評価のところでも、かなり若者に対する意識の部分ってのは非常に悪かったような記憶があります。</p> <p>実際、先ほどからもたくさんお話がでてきました。若者、大学生、あとは20代30代の今仕事を始めたばかりの人達、そういう人たちってのはなかなか食事というところには意識はいかないよねっていうのは何となく我々もわかっている中での、取り組みということになるわけじゃないですか。だからそこから辺の部分っていうところで、もっと具体的に連携しながらやっていくような施策といいますか、こういうふうな部分が課題として出たから、ここの部分にぐっとこう注力すれば、いい方向にいくのじゃないかという、そういう指標といいますか、そういうのがあったのかどうか、あとは具体的に次期骨子においては、この辺の部分に注力していきたい、と考えてらっしゃるっていうのがあるか、というところを教えていただければありがたいと思います。</p>
事務局(佐野課長)	<p>ありがとうございます。</p> <p>今平田委員からいただいたご質問については、我々も本当に若い人たちが食育に関心を持ってですね、今の大事な日本の文化、仙台の郷土食などを次世代に伝えていこうっていうふうになってくれたらというところで、取り組みについて、今この場でこれをやりますよ、といえる新しいところは現在検討中というところにはなりますが、おっしゃる通りだなというふうには考えております。</p> <p>ここの部分を特についていうところにつきましては、今回、推進の視点として</p>

	<p>は3つ作っております、どれも大切な視点と考えております。</p> <p>ただやはり食を通した心身の健康ということで先ほどもお話いただきましたけれども、1番については先ほど申し上げました「いきいき市民健康プラン」の方とも連動させながら、市民の方々の健康というところと食というところを合わせて検討していきたいと考えております。</p> <p>以上です。</p>
事務局(小椋部長)	<p>保健衛生部から1点追加でお話させていただきます。</p> <p>私ども市民の健康づくりということで全般に取り組んでいて、食育もちろんその一つの重要な要素であるわけですがけれども、健康づくりを考えていくにあたっては、我々行政側ができることはもちろん一生懸命頑張っていきますけれども、例えば、企業であったり、学都仙台でもありますので、大学、専門学校など、たくさん学校もあります。本当にたくさんのプレーヤー、それぞれの方々が主体となっていただいて、様々な形で健康づくりに取り組んでいただきたいということで、ますますそういった、一緒に取り組んでいくというスタンスを一層強くしていきたいという考えがあります。</p> <p>それで古林委員から、非常に今日良い示唆をいただいたなと思ったんですけども、食品会社であるとかスーパーコンビニといったところとの関わりを強くしていく。それによって、平田委員からあった若い世代の人たちに、「食育は大事だよ」とか「食事大事だよ」という言葉で言ってもなかなかストンと落ちるかどうかっていうのは難しい部分もあるかと思うんですけども、実はいつの間にか、そういった我々が関連を持ったコンビニがもしあったとしたら、そこで買い物をしていただければ、結果的にいい方向に繋がるっていうような、そういう仕組みがもしできれば、若い世代の方々へのPR、意識啓発、行動変容ということにも、ひょっとしたら有効に繋がっていくんじゃないかなというふうに、先ほどの発言を伺って、私個人的に考えているところがございました。</p> <p>今すぐ次の計画でこういう取り組みをしていきますというところまで、即答はできないんですけども、考え方として、そのような方向性を持っていければいいかなというふうに、今日の会議を通して思ったところです。</p> <p>以上です。</p>
平田委員	<p>先ほど部長さんからいただいた、食育に取り組んでいるようなコンビニ、スーパーに対して、何かしらいいことあるよっていうような発想ということなんですけれども、なかなか難しいところって、予算レベルでそういうふうなことってできるんでしょうかね。</p>
事務局(小椋部長)	<p>なかなか今日この場で即答が難しいと申し上げたのは、まさにその部分でございまして、お金がかかってくる可能性ってのはもちろんあると思います。</p> <p>健康づくり全般もそうですけれども、当然それはそれぞれの企業さんにとっても、そこで働く職員の方もそうですし、そこで物を買う人にとっても、全体にとってプラスになる可能性っていうのはあると思いますので、まずそういった働きかけを行っていくことが、スタートなのかなというふうにも思います。ですので、何かしらの形で、取り組みをしていければ、何か面白いことができるんじゃないかなというふうに思うところです。</p>
白川会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>他にご意見ご質問等ございませんでしょうか。いかがでしょうか。よろしいですか。</p>

	<p>皆様から貴重なご意見をいただきましたので、これらを踏まえまして、皆様それぞれのご所属におきましても、さらに情報共有を図っていただき、未来へつなげる食育の推進をぜひ目指していただきたいと思います。</p> <p>なお骨子案につきましては、本日ご発言いただいた内容に加え、後日事務局より皆様宛の文書でも、意見照会を予定しているとのことでございます。もしこの場で言えなかったご意見ですとかありましたら、そちらの照会でご回答いただければと思います。</p> <p>それでは、議事は以上となりますが、委員の皆様から全体を通してのご意見ご質問等ございますでしょうか。何かございませんか。</p> <p>なければ、それでは以上で議事を終了させていただきます。皆様からさまざまなご意見を頂戴し大変ありがとうございました。</p> <p>それでは事務局に進行お戻しいたします。よろしくお願いいたします。</p>
進行	<p><閉会></p> <p>委員の皆様、長時間にわたるご議論ありがとうございました。</p> <p>会長からもお話いただきましたが、骨子案につきましては、後日皆様へ文書照会させていただく予定です。照会には、骨子案に紐づく各団体の具体的な取り組みについても併せてお聞きする予定であります。</p> <p>また本日配付いたしました資料1、2につきましては、今一度内容を見ていただいて、内容の修正がある場合には、7月11日火曜日までに事務局へメールまたは電話等でご連絡をいただければと思います。</p> <p>なお、資料4今後のスケジュールにつきましては、今年度第2回目の会議を10月ごろに開催させていただきたいと考えております。具体の日程につきましては、今後会長と事務局とで調整させていただき、決定次第、委員の皆様にご案内申し上げたいと存じますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>以上をもちまして、令和5年度第1回仙台食育推進会議を閉会いたします。本日はありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">- 了 -</p>

令和 5年 月 日

署名委員

印